



## 児童保健委員会発表 —クイズや寸劇で楽しく学びました！—

1月15日（木）朝の児童集会で、保健委員会の子どもたちが考えてくれたクイズや寸劇で、楽しく、わかりやすく「ハンカチやティッシュをポケットに入れておくことの意味や石鹸で手を洗うこと、爪を切ること」など、保健衛生上、必要なことについて全校児童に伝えてくれました。

私が、今回素晴らしいと感じたことは、「ハンカチやティッシュをポケットに入れておく理由」を当てるクイズの選択肢の一つにあった「先生に言われるから」でした。もちろん、正解ではありません。「〇〇に言われるから」は、行動の本質ではなく、必要性を理解している大人が子どもたちに「正しい行動・習慣」として伝えているものですが、「その理由や意味」までしっかりと伝えられているか？考えさせられました。

衛生面を考えて、発達段階に応じたマナーやエチケットは、「行動やあるべき姿」を伝えるだけでなく、「なぜ？」も子どもたちにわかる言葉で丁寧に伝えていかなければならぬのだと、保健委員の子どもたちの発表から気づかせてもらい、学ぶことができました。

まだ、気温が低く、乾燥した日が続きます。これからも、各ご家庭と連携して風邪やインフルエンザ等の感染症の予防に注意努めて参りますので、ご協力をお願いいたします。



【保健委員会の発表の様子】

## 新企画 西公民館で西小作品展開催中！

1月15日（木）～2月末頃までの間、西公民館長さまのご厚意で、西公民館1階のスペースの一部をお借りして、西小の子どもたちの絵画や工作を展示させていただいています。お時間があればご覧ください。なお、作品を見ていただきましたら、感想カードを用意してありますので、コメントを書いて設置してありますボックスに入れていただけたら幸いです。いただいたご意見等は、後日、学校で子どもたちに紹介したいと思います。

作品は2週間程度を目安に入替えを行う予定ですので、できるだけ多くの作品を皆様にご覧いただけるようにしたいと考えています。

※なお、西公民館は駐車場が少ないので、できるだけ自転車や徒歩等で足を運んでいただけますようお願いいたします。



【西小児童の作品展】

## 入学説明会開催しました！

1月16日（金）来年度、西小へ入学を予定している新入生21名の児童及び保護者の方を対象にした入学説明会を行いました。新入生が年々少なくなり、少しさびしく思いますが、少人数ならではのきめ細かく丁寧に、対応することができるメリットを生かして、一人一人のよさをしっかり伸ばして行きたいと思えます。4月の入学式まであと2ヶ月程となりますが、在校生及び職員一同新入生の入学を楽しみしています。

1月23日（金）には、6年生が中央中学校の入学説明会に行ってきました。新たな門出はもうすぐです。不安とワクワクする気持ちで一杯かと思われそうですが、残りわずかとなった西小での生活を仲間と大切に過ごしてほしいと思えます。

### ＜お知らせ＞

右のQRコードから西小のWebページをご覧いただくと、過去の「学校だより」等をご覧いただけます。



西小ホームページ



# 西小の取組紹介⑮

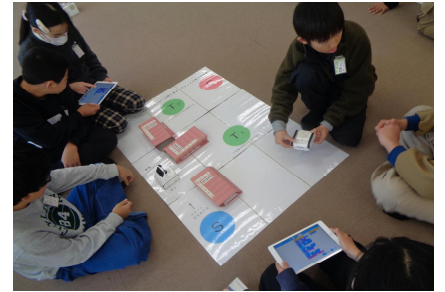
がんばっている西小の子どもたちや先生方を紹介します！

## 6年生 サイエンスドクターによる授業支援でプログラム学習

12月22日(月)6年生の理科の授業で桐生市のサイエンスドクター事業を活用して、プログラミングの学習を行いました。サイエンスドクターとは、群馬大学理工学部の大学院生が小中学校に出向き、理科等の授業支援を行う桐生市の事業です。西小では、夏休み前、自由研究を行うにあたってテーマ設定や実験、まとめ方等について支援をいただきました。今回が2回目になります。

子どもたちは、ロボットにミッション(任務)を完了させるための命令(プログラム)をタブレットを片手に、アイコン(命令)を選び、それをつないで動作確認をくり返します。この作業がコンピュータを動かすロジックであり、

アルゴリズムであることを体験から学びました。授業が終盤になると、子どもたちはトライ(試行)&エラー(失敗)をくり返しながらか、次々と目標(課題)を達成することができていました。



【ミッションに挑む6年生】

## 6年が下級生に総合学習の成果を発表してくれました！



【おみくじをやりました】

1月27日(火)、28日(水)の2日間、昼休みに6年生が「総合的な学習の時間」に桐生について調べたことを発表してくれました。「**輝け！！オールスター桐生**」と題して、下級生に向けて屋台村形式(的当て、おみくじ、すごろく、ボーリング、めんこなど)で、遊びながら桐生について知ることができる内容でした。参加した4年生からは「お祭りみたいで楽しい」「毎日やってほしい」と感想を話してくれました。



【すごろくを楽しむ子どもたち】

## 校長室から

### 「おひさまとえんぴつ」が気づかせてくれた身近にあるWell-Being

「先生！学校においてほしい本があるんですけど、どうですか？ぜひ、子どもたちにも読んでほしいんですよ。」と校長室前の廊下で私は、ある保護者の方から声をかけられました。声の主は、以前、私が中学校に勤務していた時の教え子で、本校の保護者でした。「学校に本を寄贈したい」といった申し出でした。断る理由もないのですが、学校の図書室に置くとなると何でもよいというわけにはいかないの「一度読ませてもらってもいいですか？」と伝え、一旦その場は別れました。後日、その保護者の方が来校された際に「おひさまとえんぴつ」という本を預かりました。耳に障がいを抱えながらも小説家になりたいという夢をもち続けた本好きの主人公の日常を明るく、ユーモラスに、時に切なく感動的に描かれた絵本でした。年を重ね、涙腺が弱くなった私は一話から涙し、30分程で全四話まで一気に読み終えました。子どもたちにも読んでほしいし、子どもたちとは違う目線で保護者の方も機会あれば読んでほしいと思えた心が温まる本でした。

さて、本の紹介はここまでで、私は本を学校に寄贈してくれた保護者の方が「感動を(わが子以外の)西小の子どもたちへ」という行動にも心を打たれました。個人的には「自らが関わった人(教え子)の成長を(勝手に)誇らしく思っています。こうした行動は、「自分だけではなく、みんながよくなることを考え、主体的に行動できる人を育てることで、精神的、社会的に満たされ、幸福感や充実感を感じながら良好な状態を続けることができる人(社会)になる」といった、文部科学省や群馬県がめざしている Well-Being の考え方そのものです。

今、私たちの目の前にいる西小の子どもたちが、やがて大人になったときに、自らが幸せであると同時に、自分の周りの人たちが幸せになるよう主体的に行動できる人になれるように、支援していきたいと考えています。

